

2025 年度 新入社員 アンケート 結果報告

Results of New Employee Survey



目次

1. 調査の目的	2
2. 調査の対象	2
3. 調査の方法	2
4. 調査の時期	2
5. 調査の対象	3
・回答者の人数.....	3
・回答者の年代.....	3
・回答者の性別.....	4
6. 結果の概要	5
7. 設問別結果	6
Q1. 何歳まで働きたいと思いますか？ また何歳まで働かなければならないと思いますか？ ..	6
Q2. ご自身にとって「老後」は何歳からだと思いますか？	8
Q3. 国からの「公的年金」は、いつからもらえると思いますか？.....	9
Q4. 「資産運用」と聞いて何を思い浮かべますか？	10
Q5. これまで「資産運用」の経験はありますか？	12
Q6. 給料から毎月いくくらい貯金しようと思いますか？	13
Q6-1. 「1万円以上貯金をする」と答えた方へお聞きします。 そのうち、何割くらいを投資に使 おうと思いますか？	14
Q7. 「少子化」と言われていますが、将来子供が欲しいですか？	15
Q8. 家庭で将来のお金について話した、またはアドバイスされたことはありますか？	16
Q9. 将来に備えてお金を貯めるとしたら、誰に相談しますか？	17
Q10. 先にもらう、後にもらう、どちらを選びますか？	18
Q10-1. 先にもらう、後にもらう、選んだ理由は？	19
Q11. 普段、お金に関する情報を収集するメディアは何ですか？	20
Q12. 普段どんなキャッシュレス決済を利用していますか？	21
Q12-1. 使用しているバーコード決済（アプリ）は何ですか？	22
Q13. お金の管理に関するアプリを利用していますか？	23
Q13-1. お使いになっているお金の管理に関するアプリは何ですか？	24

1. 調査の目的

入社時に企業型確定拠出年金（企業型 DC）へ加入すると共に実施される投資教育では、老後のための制度という性質上、新入社員の関心が低いと思われるが、一方では国の施策（資産運用立国、人生 100 年時代）などにより若年層の投資への関心が高まり二極化していると考えられる。

このような状況から、新社員のお金に関する意識や情報収集の方法を調査し、金融リテラシーや資産運用との向き合い方に関する教育コンテンツの企画の基となるデータを集め、DC 制度活用という企業の思いを実現するひとつのきっかけとする。

本調査は 2018 年度から継続して実施しており、共通の質問項目については時系列の比較を行う。

2. 調査の対象

2025 年度調査参画企業における新社員 合計 2,082 名（53 社）
経年変化については、2021 年～2025 年の 5 年分を対象とする

3. 調査の方法

Web 回答、および回答用紙にて実施

4. 調査の時期

2025 年 4 月 1 日～5 月 31 日
上記期間における企業型 DC の加入時研修受講後の調査とする

5. 調査の対象

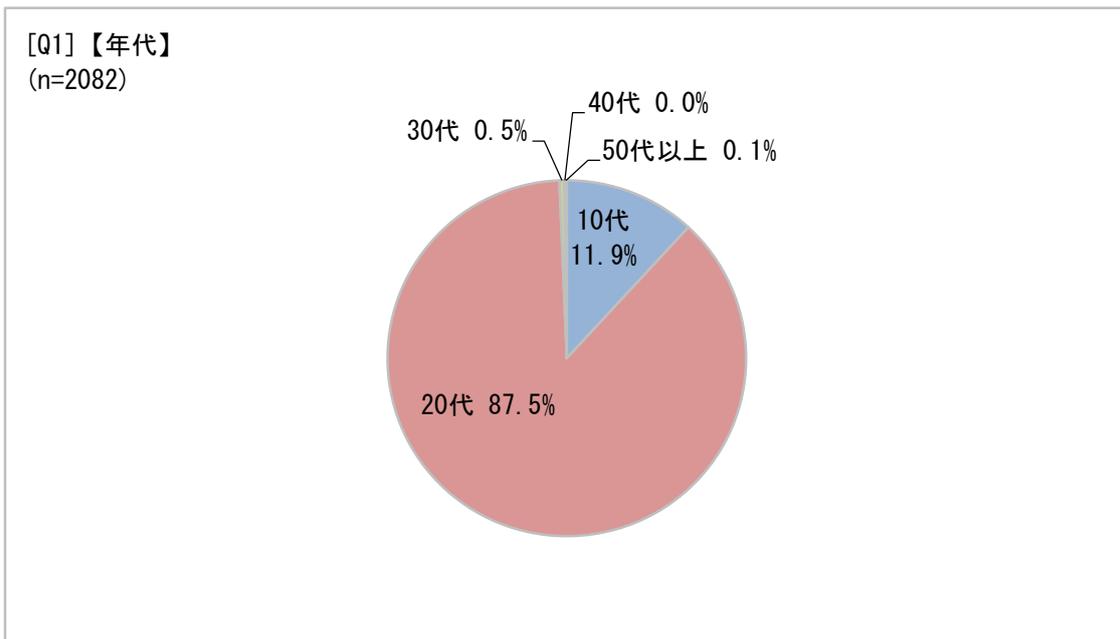
・回答者の人数

【回答者の人数】 (人)

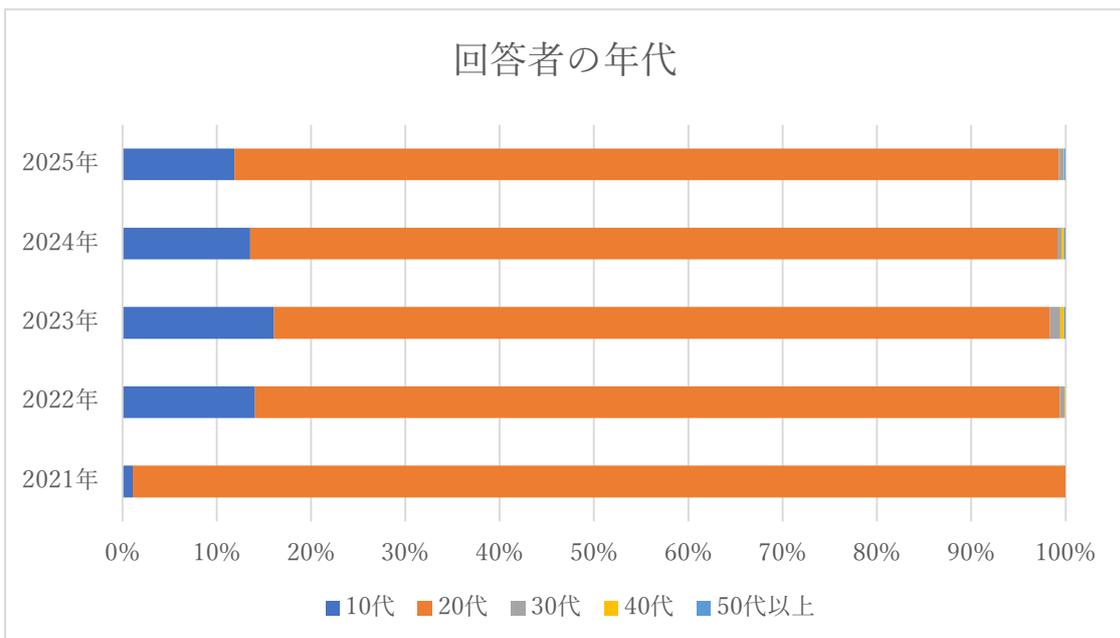
2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1,237	2,206	1,268	1,417	2,082

・回答者の年代

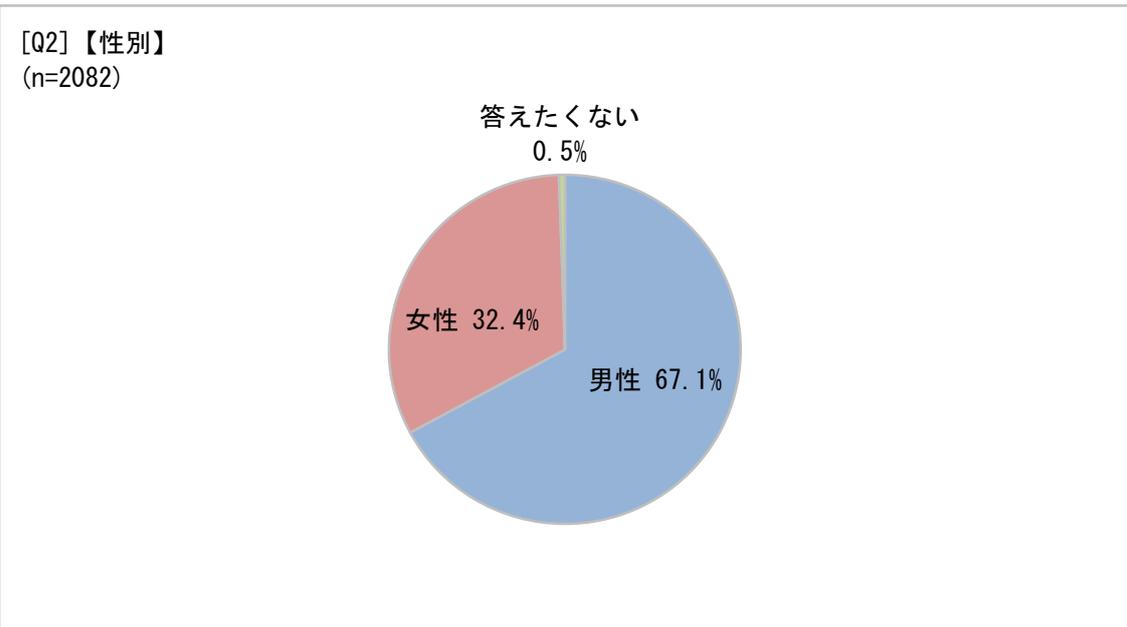
【2025年グラフ】



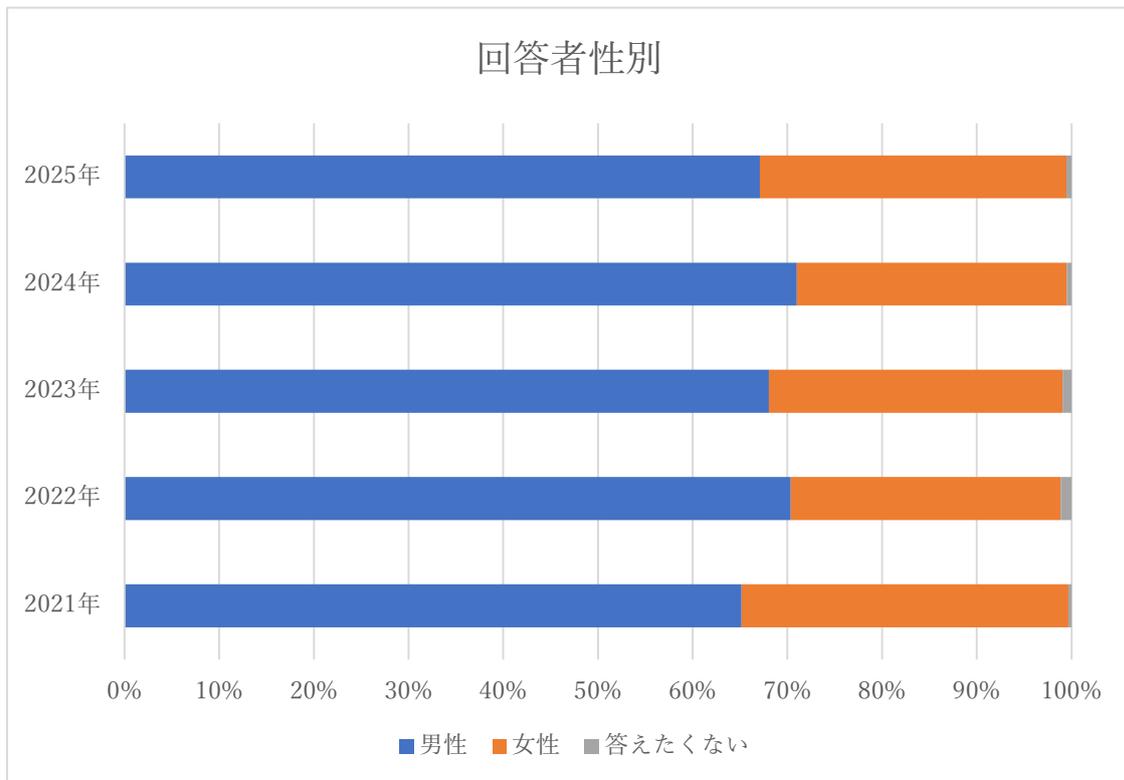
【経年変化グラフ】



・回答者の性別
【2025年グラフ】



【経年変化グラフ】



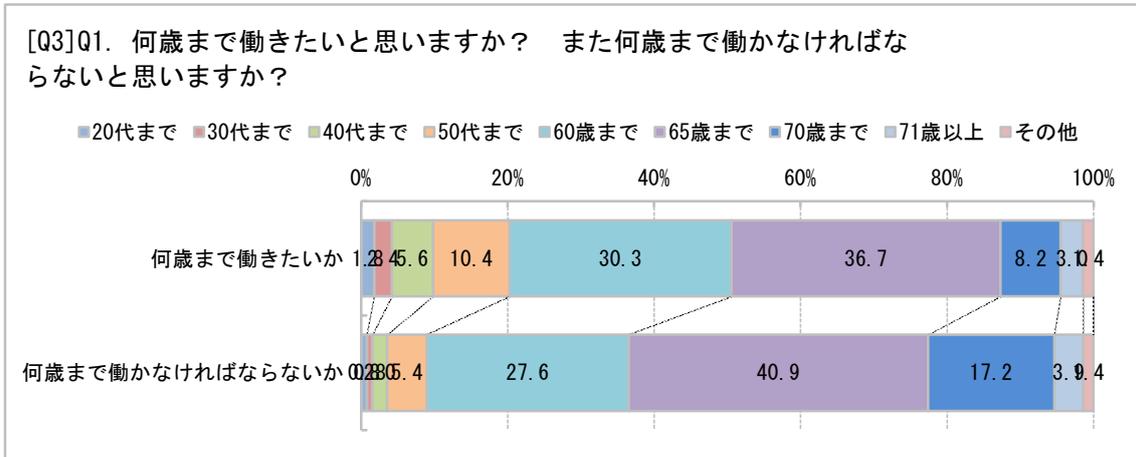
6. 結果の概要

- ✓ 60歳までを含みそれ以上の年齢まで働きたいとの回答が約80%、同様に働かなければならないとの回答が約91%となっており、働きたい年齢よりもさらに先の年齢まで働かねばならないと感じていることが分かる。
- ✓ 定年延長や再雇用を加味し、同様に65歳までを含みそれ以上の年齢では、働きたいとの回答が約49%、働かねばならないとの回答が63%であり、その差はさらに開く。
- ✓ 将来の見通しが分からないため、何だか分からない不安が反映していると考えられ、さらにならなくなると不安が増しているとも言える。
- ✓ 公的年金は65歳からもらえるという認識が約48%、60歳と回答する割合は約24%、70歳は約21%。(65歳は現行ルール通り。60歳は制度や状況を理解していない可能性あり。70歳は将来を危惧している可能性あり。)
- ✓ 「資産運用」と聞いて思い浮かべる言葉の中で、特に「NISA」の割合が約69%（昨年70%）と、ここ数年で高くなってきている。資産運用立国推進や金融機関のプロモーション等が影響している可能性がある。
- ✓ 「資産運用」の経験がある17%の中で、経験がないと比べて、思い浮かべる言葉を比較して10ポイント以上多いものは、「不動産収入」、「投資信託」、「NISA」、「金（ゴールド）」、「債券」、「仮想通貨」、「確定拠出年金」となっている。
- ✓ 「資産運用」の経験があると、「難しい」、「わからない」と思い浮かべる割合が低い。
- ✓ 将来に備えてお金を貯めるとしたら、親に相談するが過半数。
- ✓ キャッシュレス決済を利用していない割合は5%を下回っている。

7. 設問別結果

Q1. 何歳まで働きたいと思いますか？ また何歳まで働かなければならないと思いますか？

【2025年グラフ】



【クロス集計表】

Q1. 何歳まで働きたいと思いますか？ また何歳まで働かなければならないと思いますか？

		何歳まで働かなければならないか									
		全体	20代まで	30代まで	40代まで	50代まで	60歳まで	65歳まで	70歳まで	71歳以上	その他
全体		(2082)	17	16	42	112	574	851	359	82	29
何歳まで働きたいか	20代まで	(38)	7	3	0	2	8	13	3	2	0
	30代まで	(50)	2	2	6	8	17	11	2	1	1
	40代まで	(117)	0	2	13	19	33	38	9	2	1
	50代まで	(217)	1	3	13	39	65	69	24	1	2
	60歳まで	(631)	1	4	7	34	256	225	89	13	2
	65歳まで	(765)	4	1	2	10	166	403	150	26	3
	70歳まで	(171)	2	1	0	0	18	64	70	15	1
	71歳以上	(63)	0	0	0	0	5	21	12	22	3
	その他	(30)	0	0	1	0	6	7	0	0	16

10~49

50~99

100~

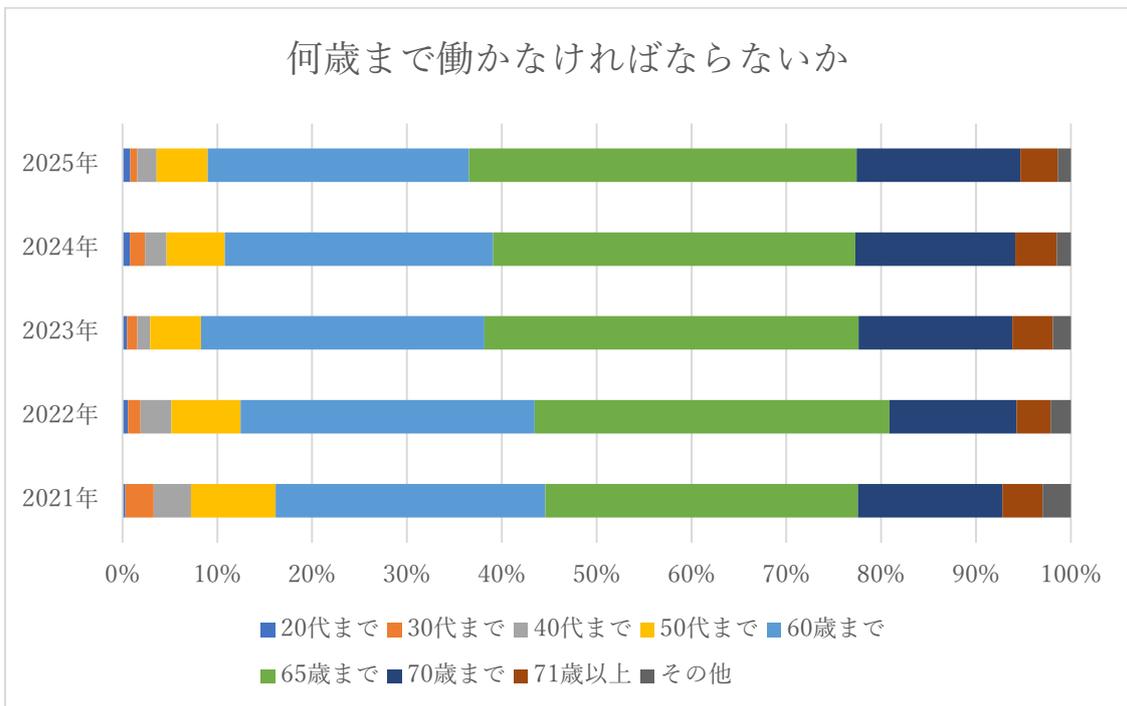
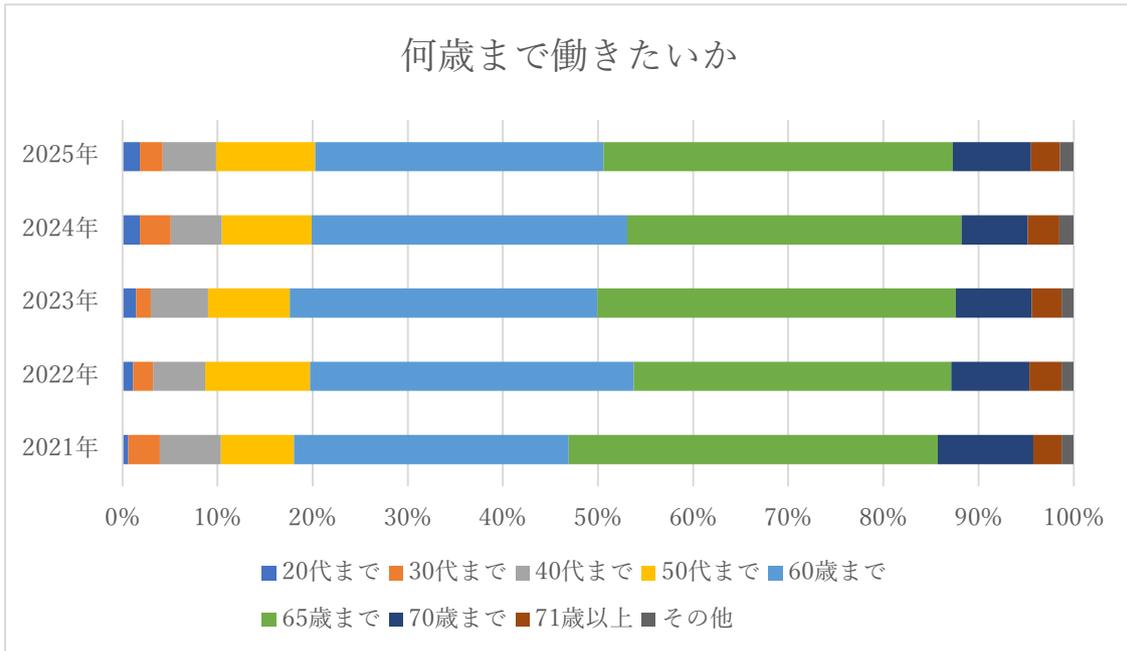
二重線枠は、働きたい=働かねば

二重線枠よりも右は、働きたい < 働かねば

二重線枠よりも左は、働きたい > 働かねば

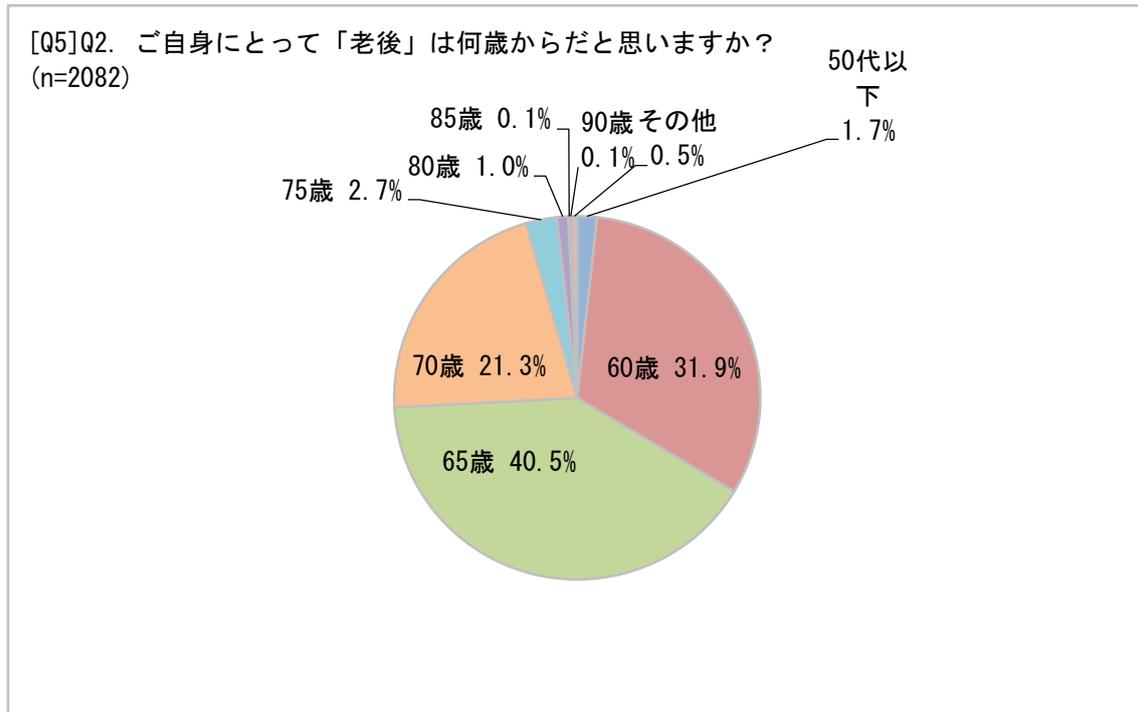
- ・ 働きたい年齢よりも、働かねばならない年齢が、小さい：18%、同じ：40%、大きい：42%
- ・ 定年退職が60歳、再雇用が65歳までと考えても、将来はそれより先まで働かねばならないと考えている。また、将来は定年退職年齢が伸びると考えているのかもしれない。
- ・ 少子化や年金受給年齢の引き上げ、物価上昇（インフレ）など、将来に関わる話題は見えないものが多く、不安に思っているとも言えるかもしれない。

【経年変化グラフ】

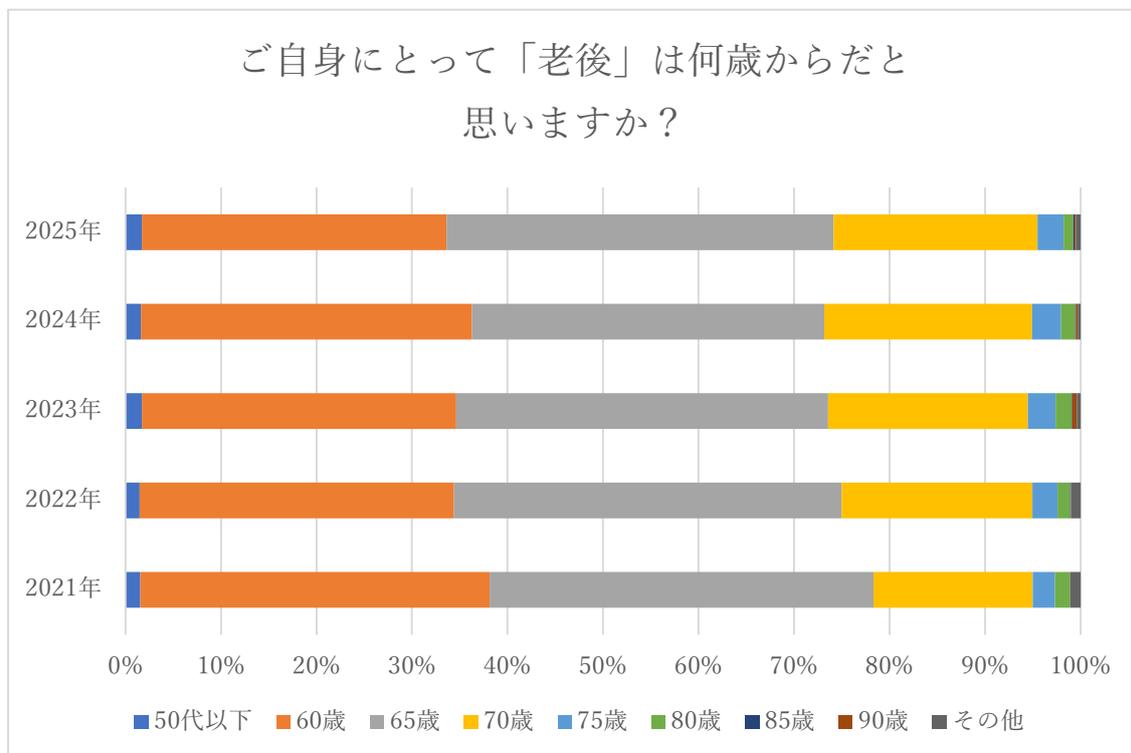


Q2. ご自身にとって「老後」は何歳からだと思いますか？

【2025年グラフ】

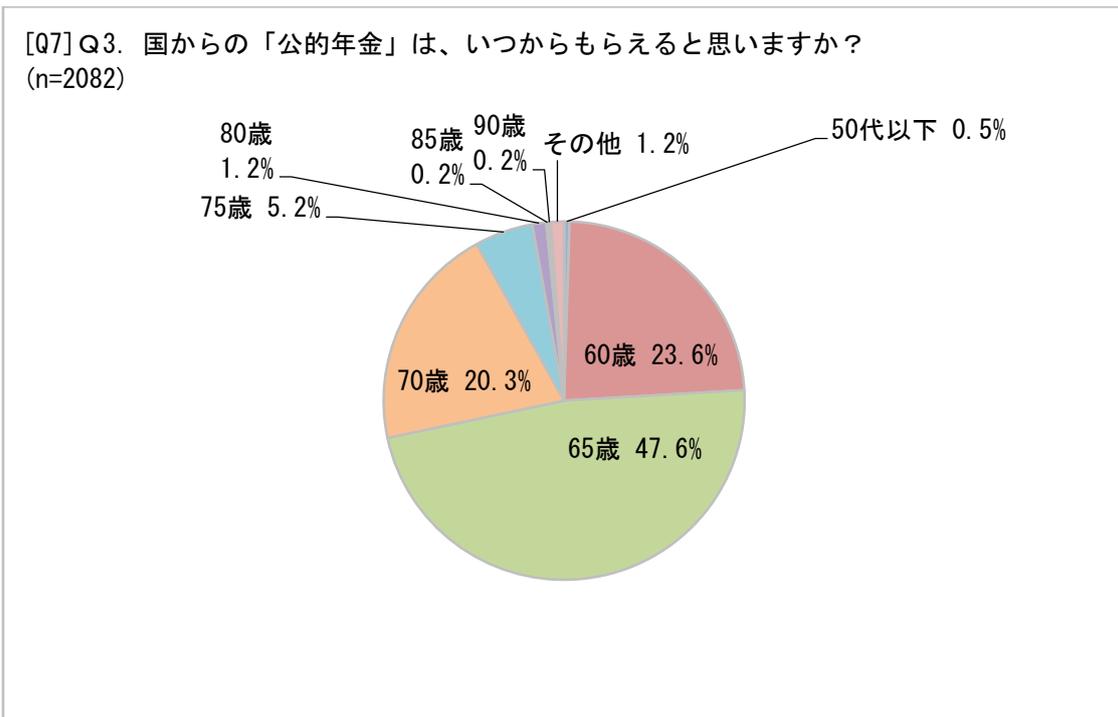


【経年変化グラフ】

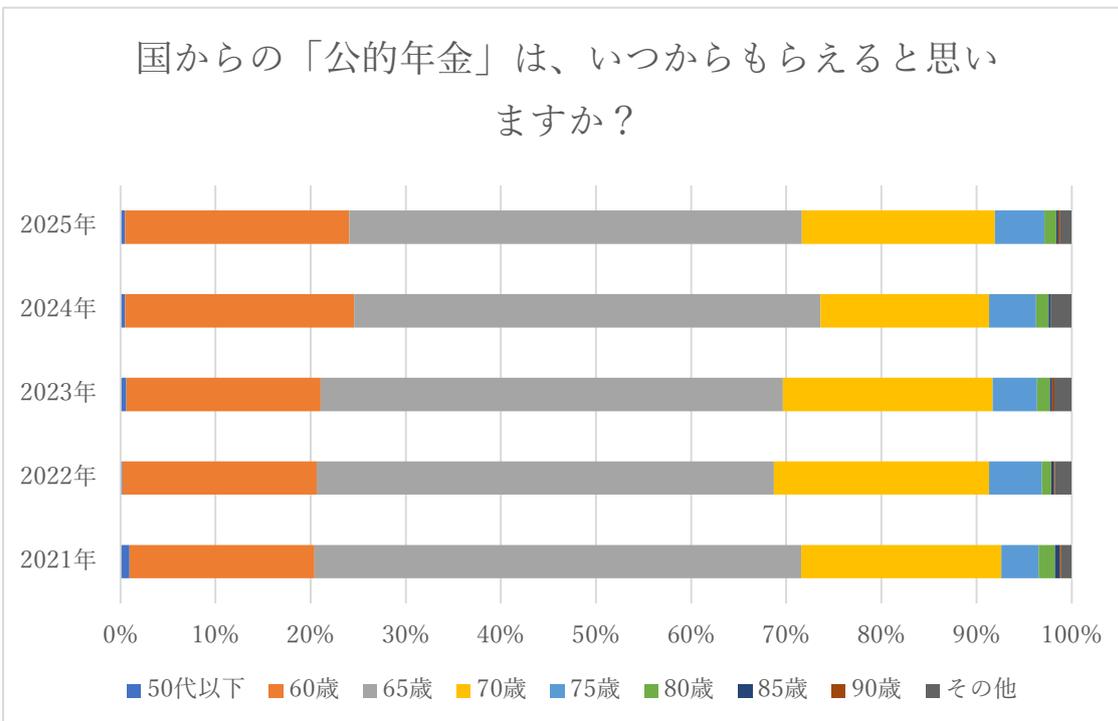


Q3. 国からの「公的年金」は、いつからもらえると思いますか？

【2025年グラフ】

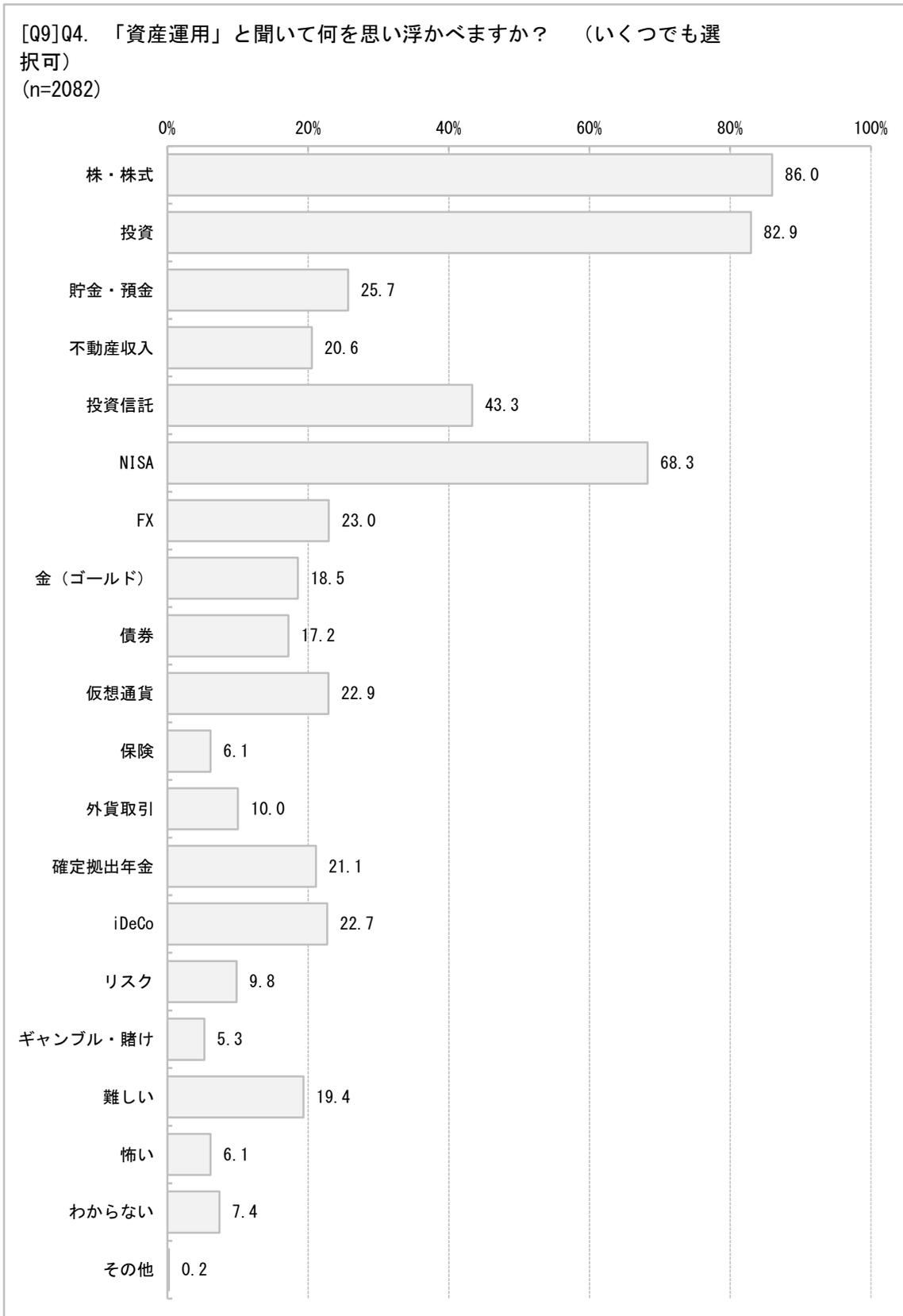


【経年変化グラフ】

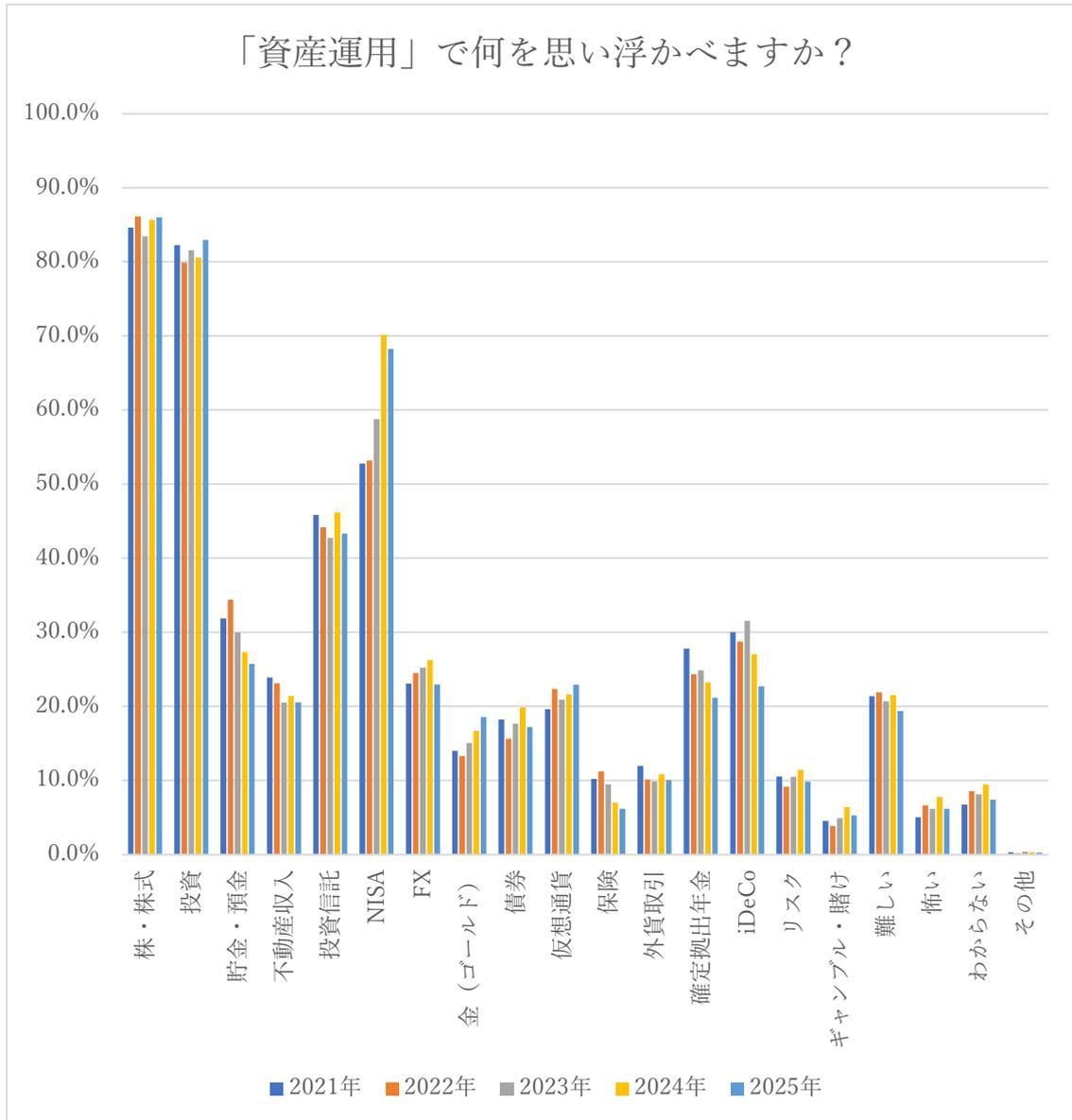


Q4. 「資産運用」と聞いて何を思い浮かべますか？

【2025年グラフ】

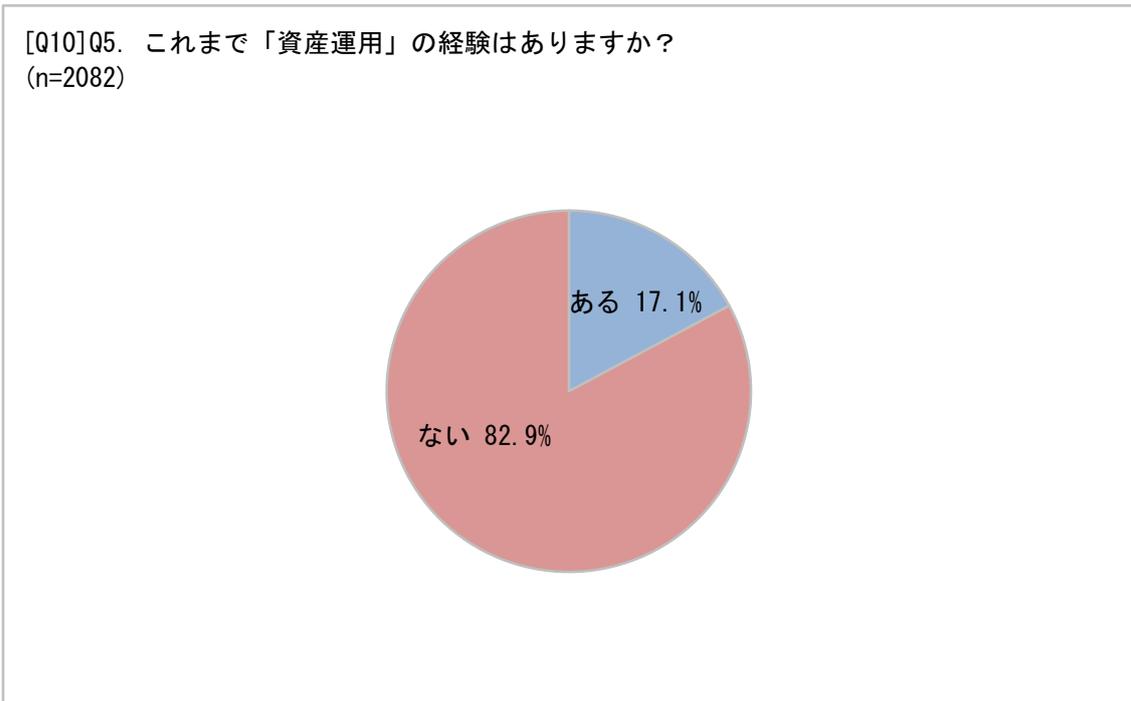


【経年変化グラフ】

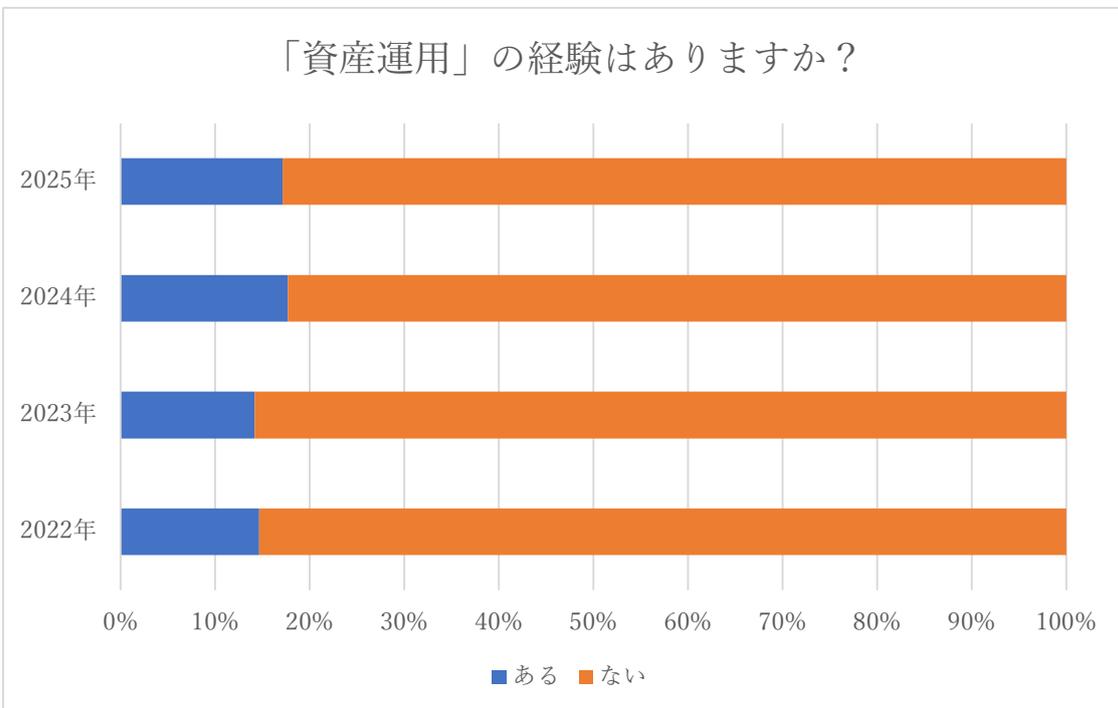


Q5. これまで「資産運用」の経験はありますか？

【2025年グラフ】

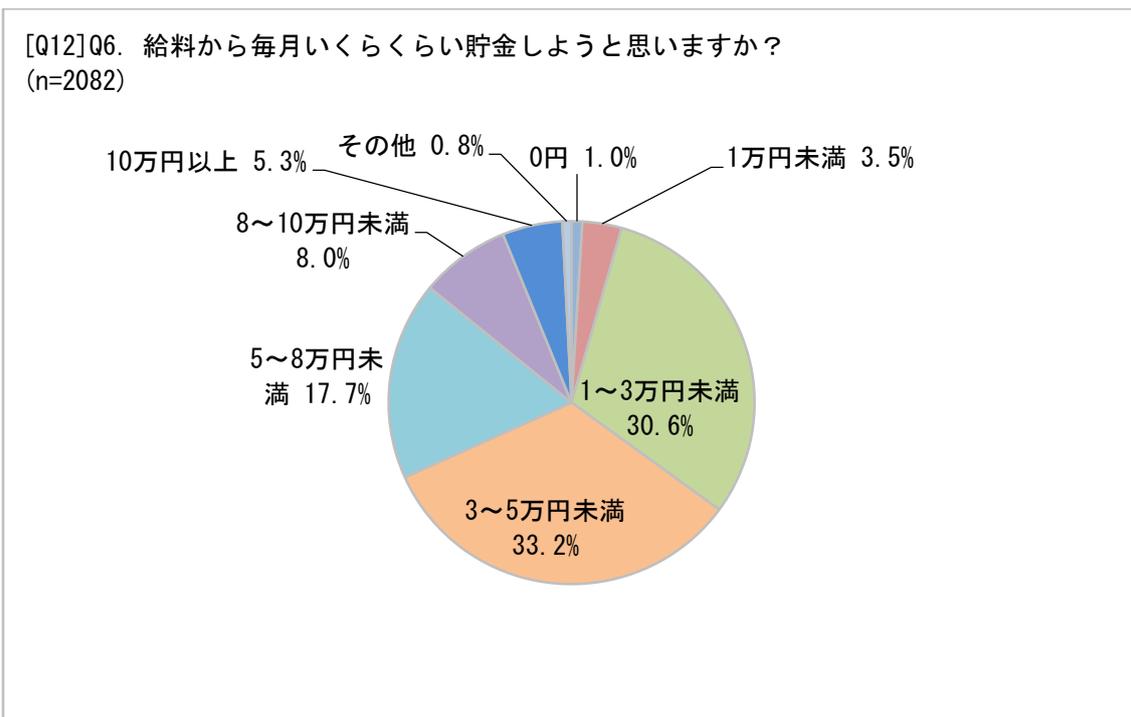


【経年変化グラフ】

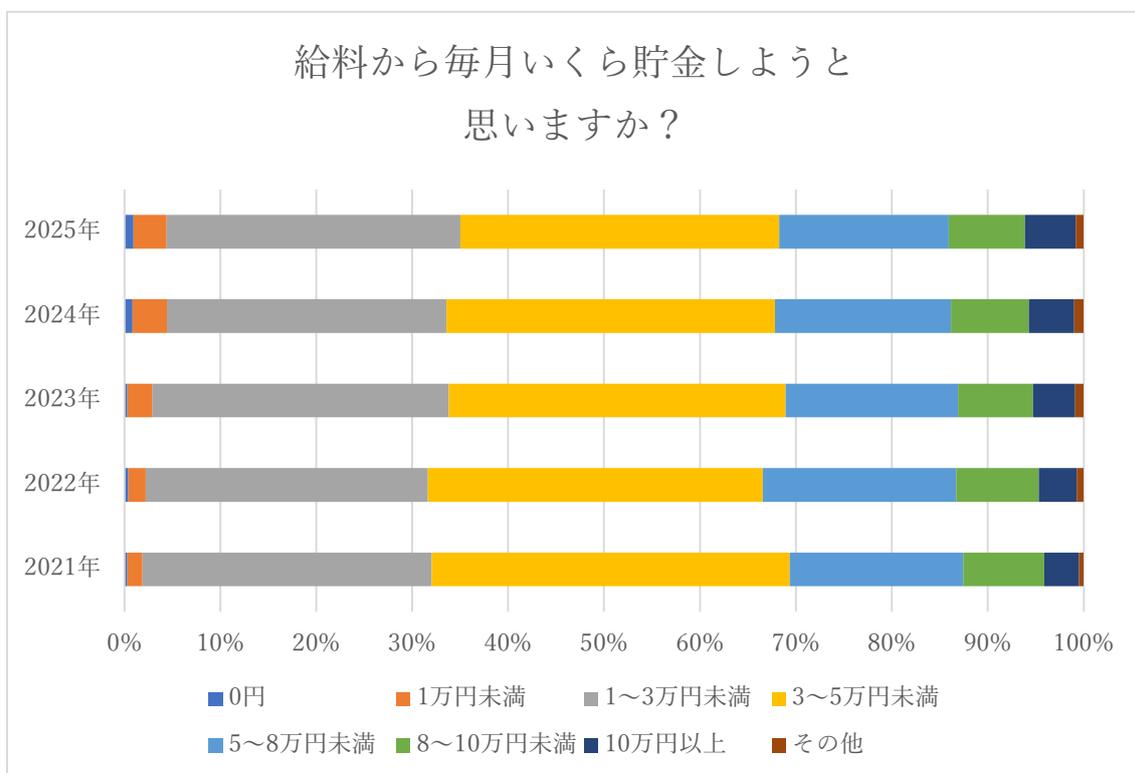


Q6. 給料から毎月いくらくらい貯金しようと思いますか？

【2025年グラフ】

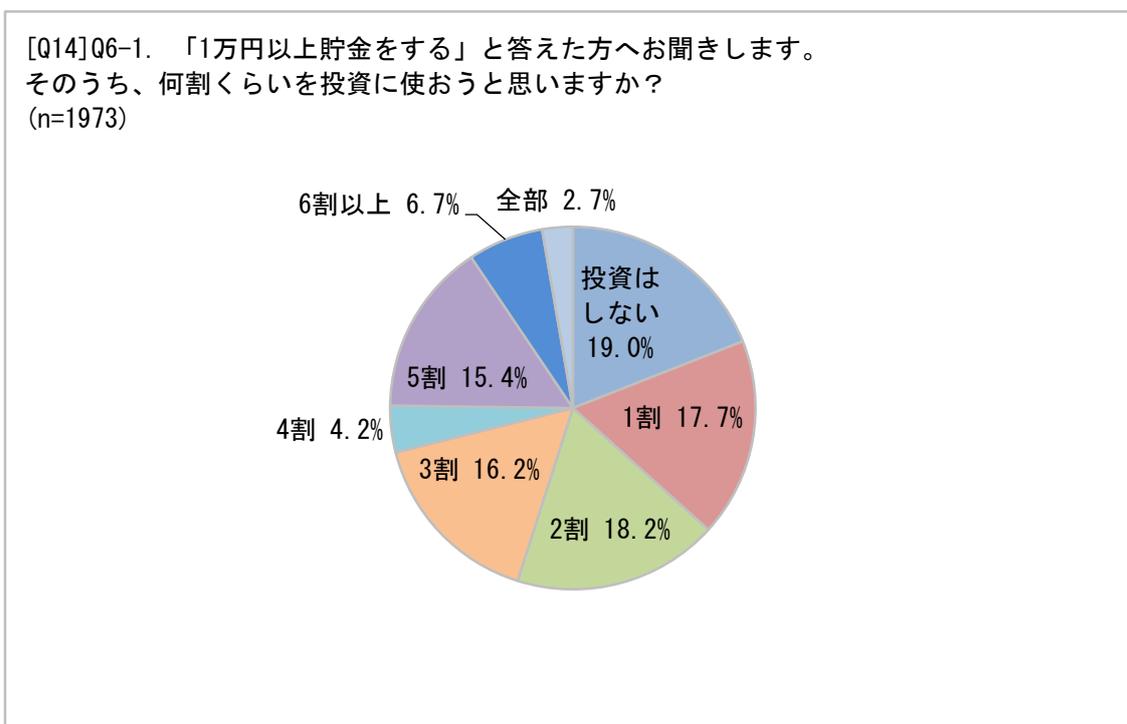


【経年変化グラフ】

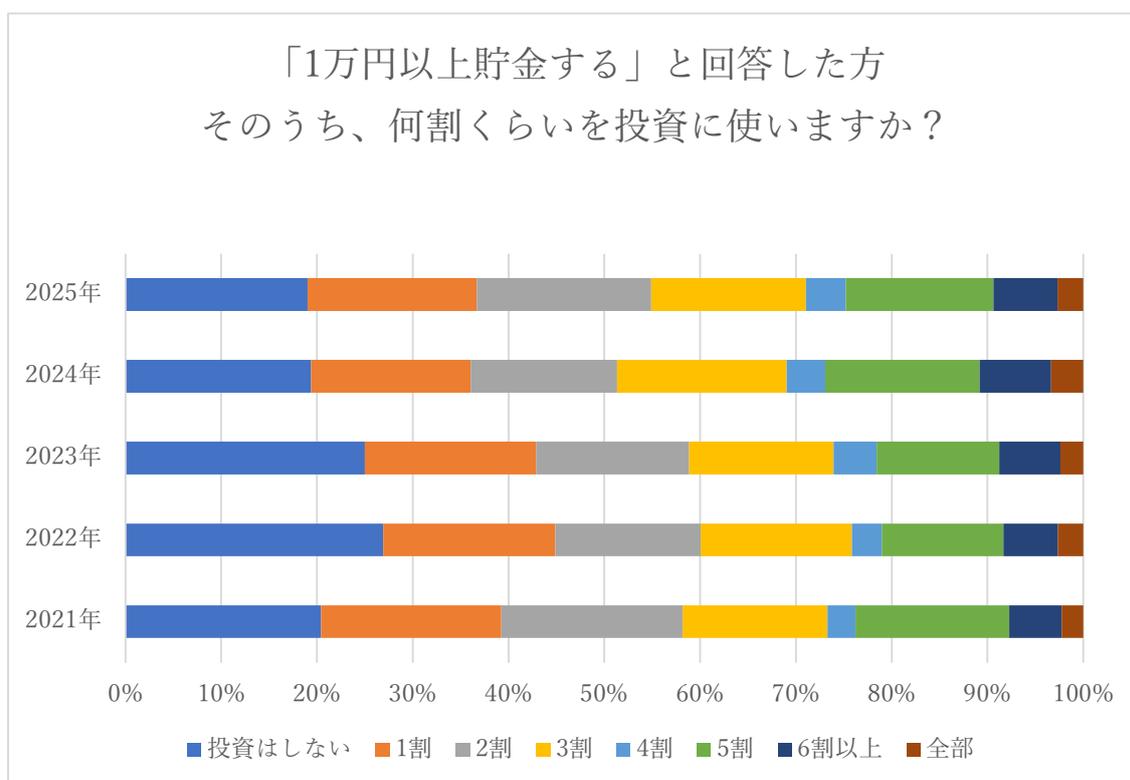


Q6-1. 「1万円以上貯金をする」と答えた方へお聞きします。 そのうち、何割くらいを投資に使おうと思いますか？

【2025年グラフ】

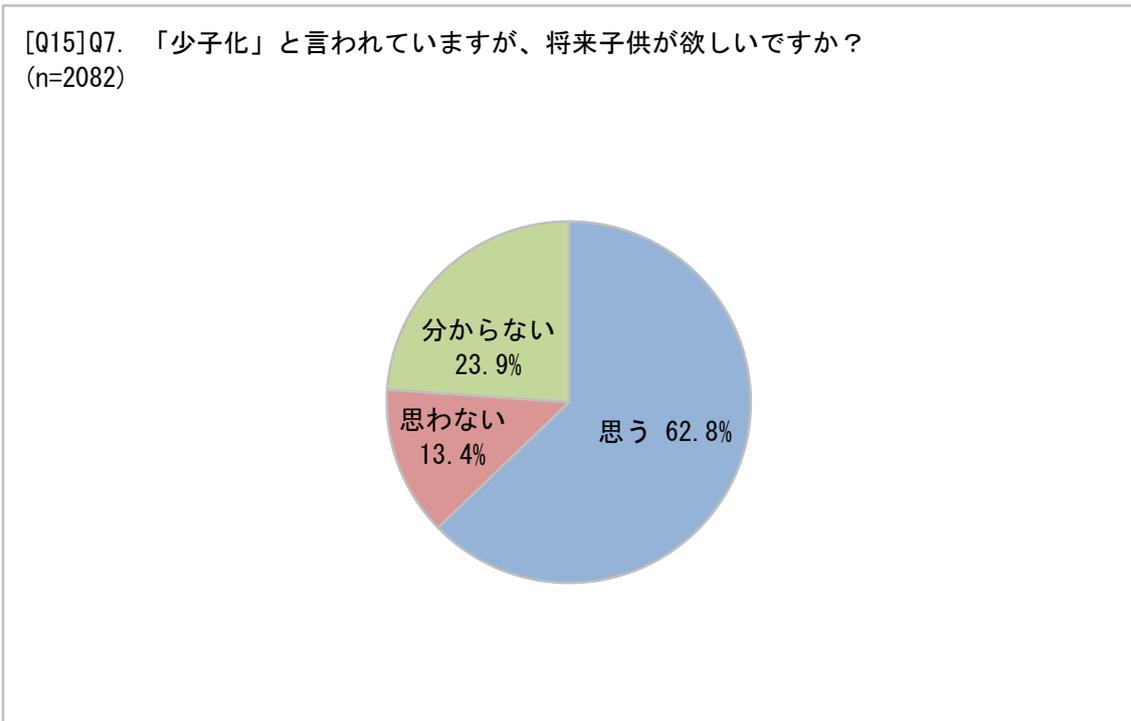


【経年変化グラフ】

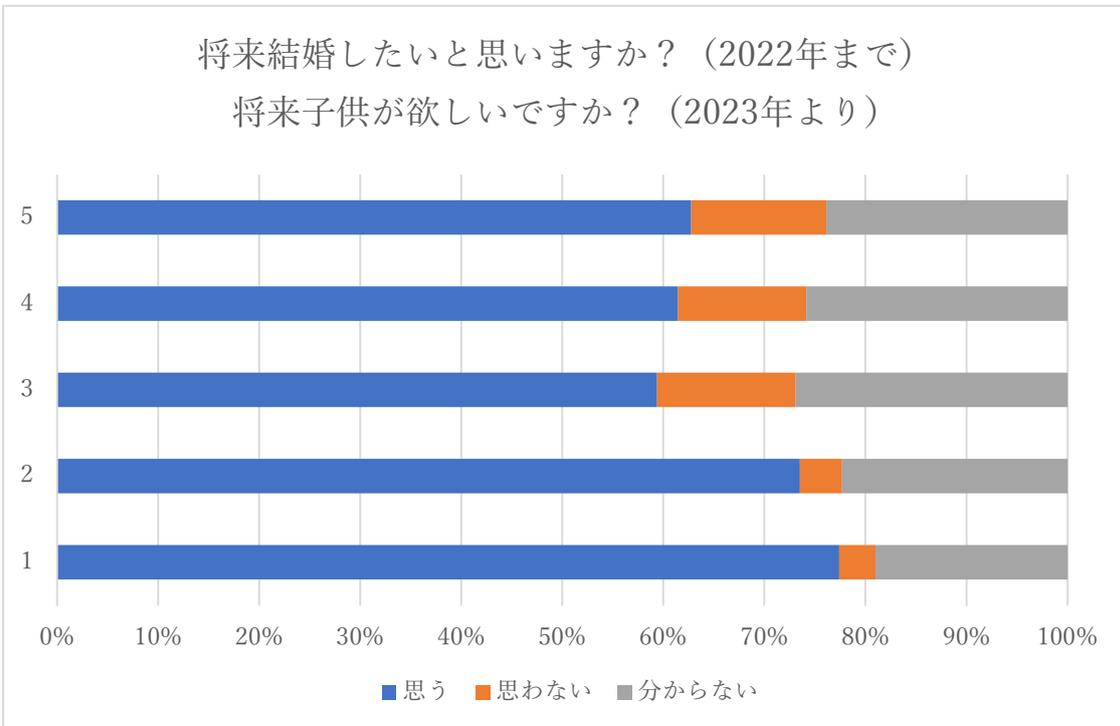


Q7. 「少子化」と言われていますが、将来子供が欲しいですか？

【2025年グラフ】

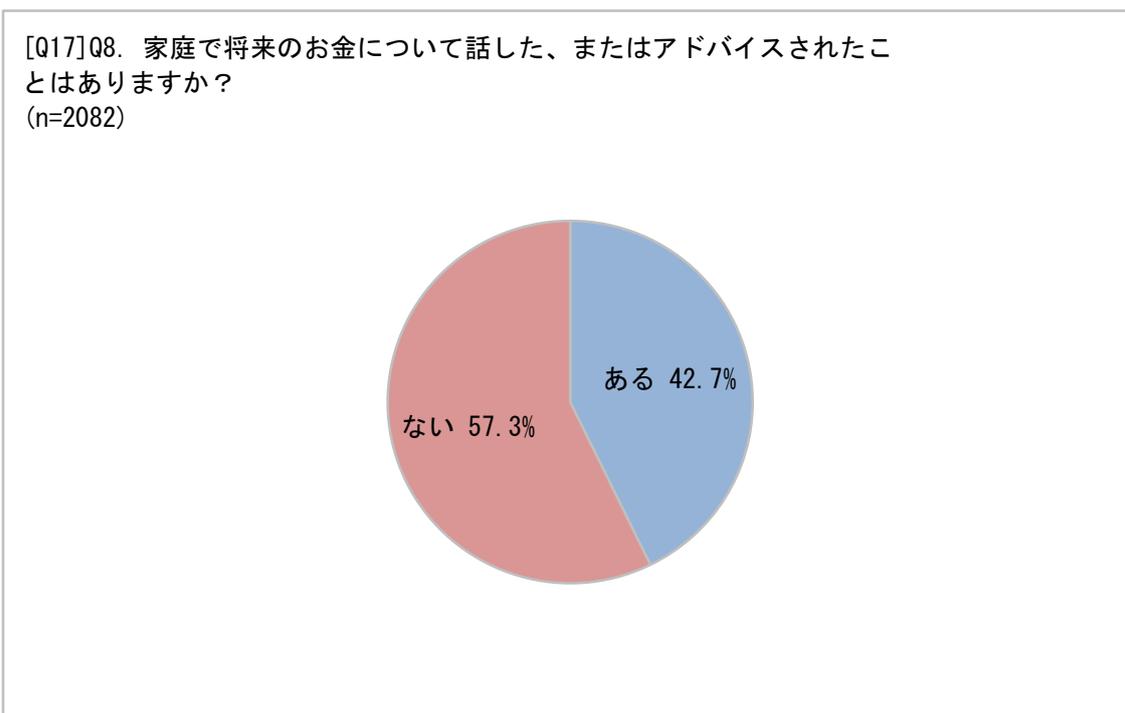


【経年変化グラフ】

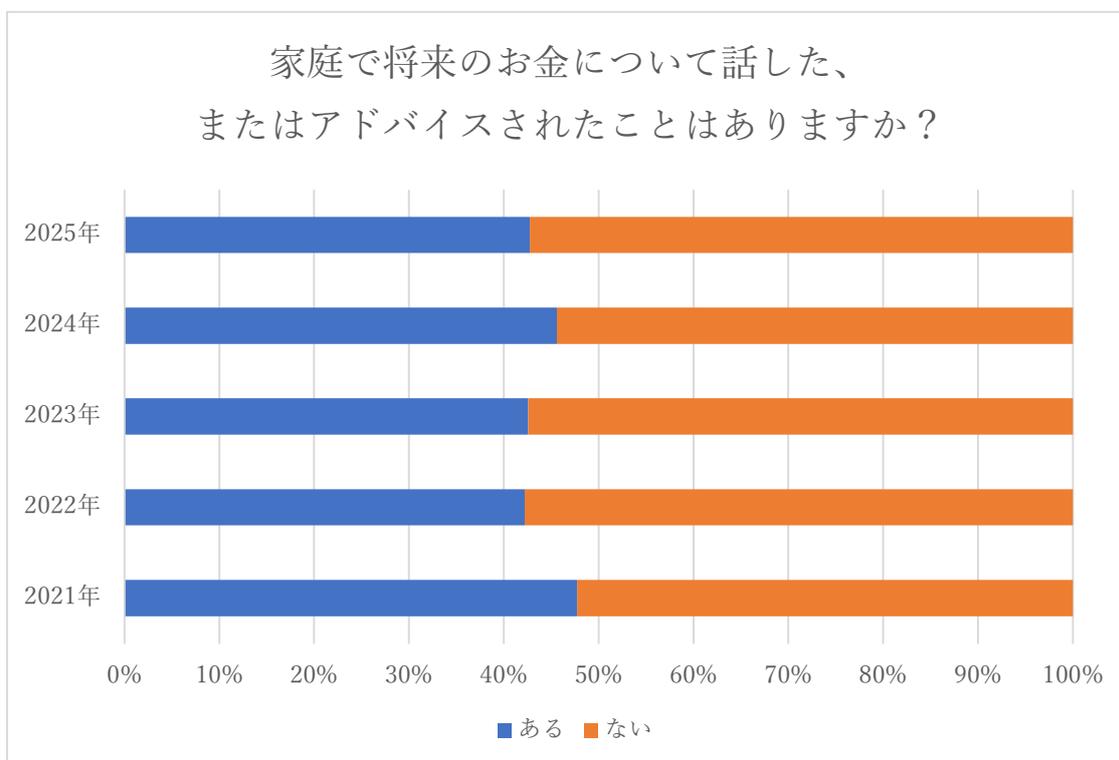


Q8. 家庭で将来のお金について話した、またはアドバイスされたことはありますか？

【2024年グラフ】

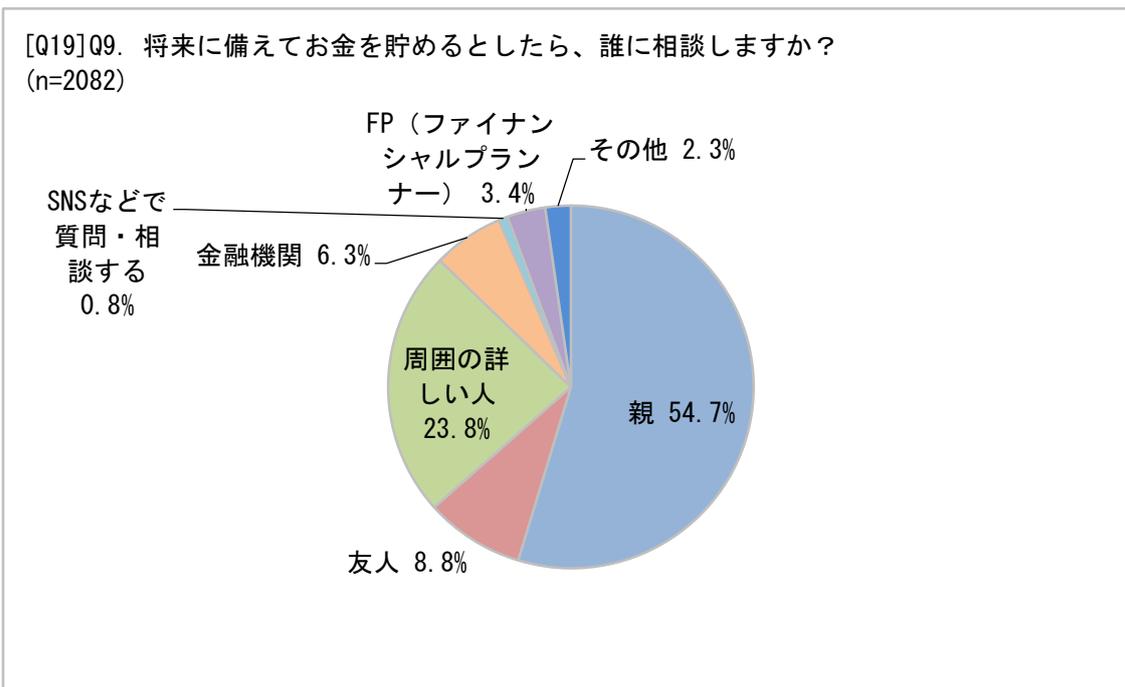


【経年変化グラフ】

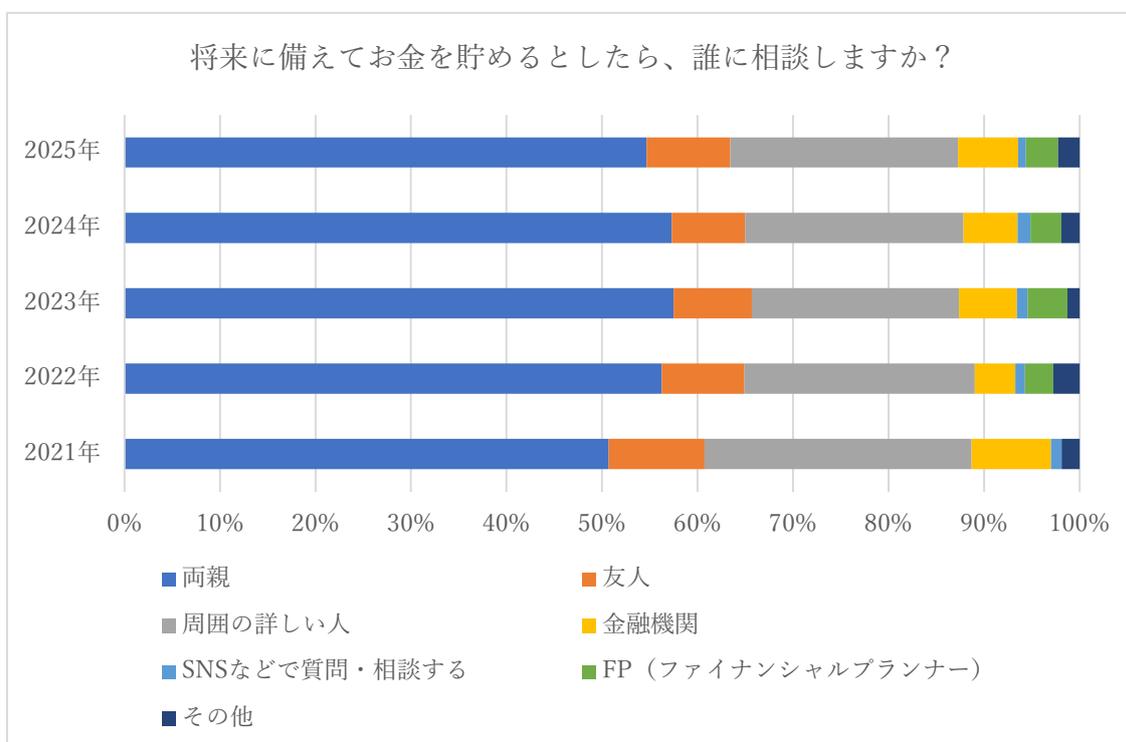


Q9. 将来に備えてお金を貯めるとしたら、誰に相談しますか？

【2024年グラフ】



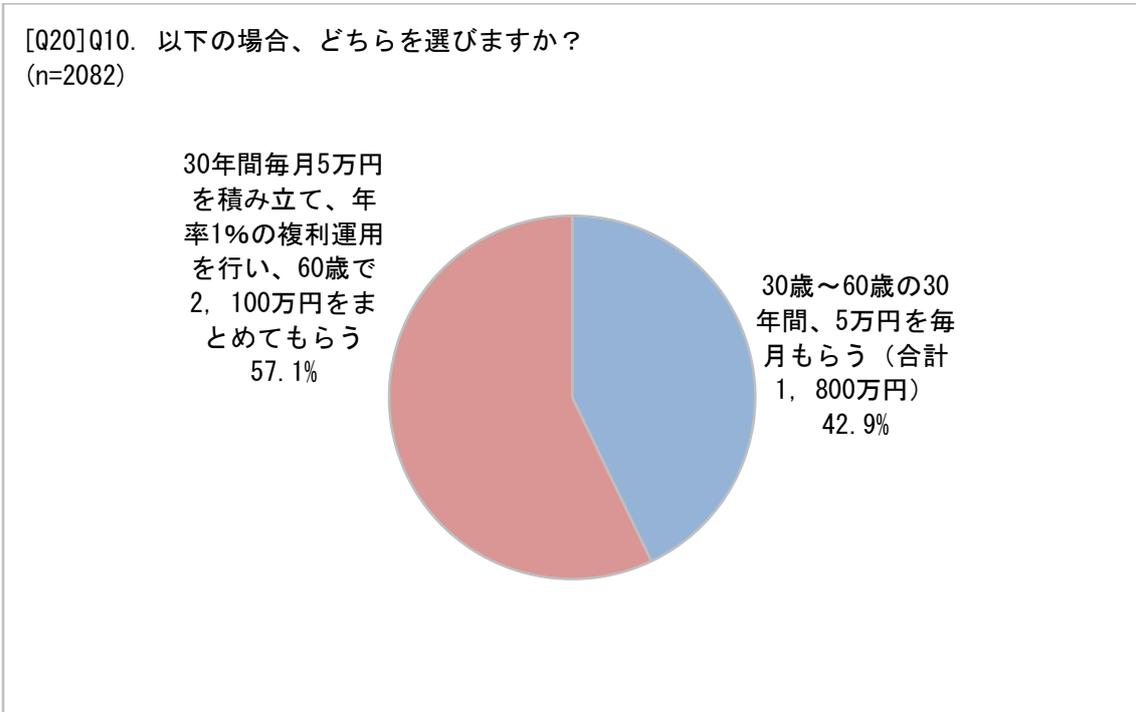
【経年変化グラフ】



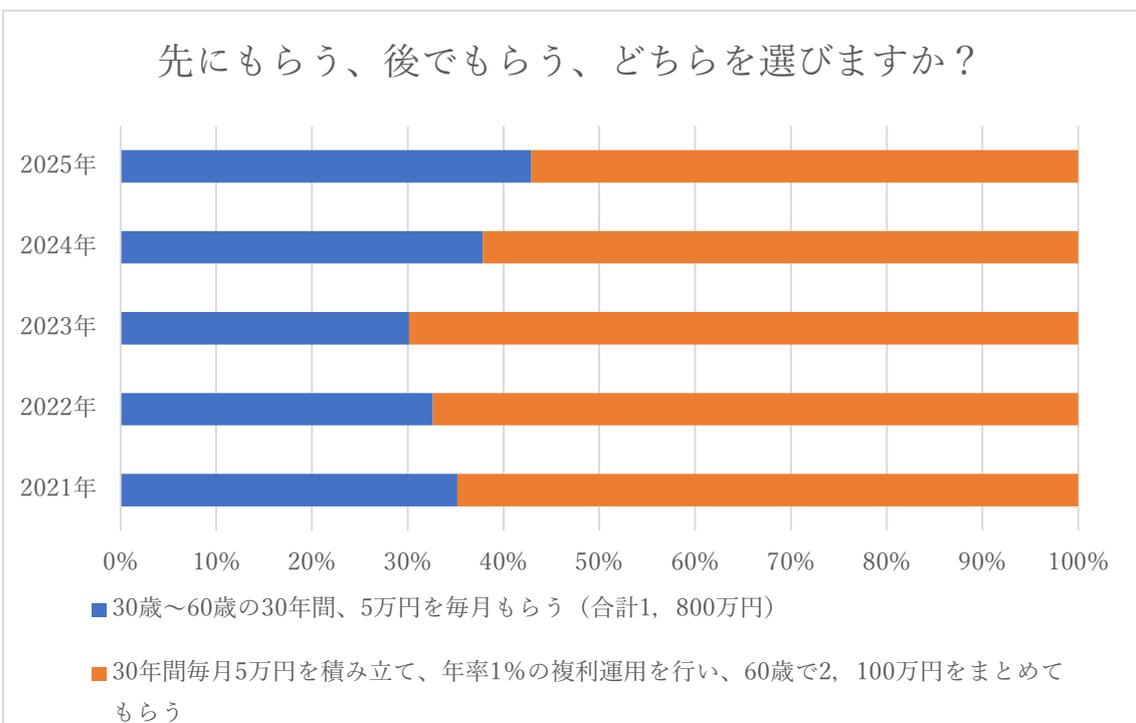
Q10. 先にもらう、後にもらう、どちらを選びますか？

- ・ 30歳～60歳の30年間、5万円を毎月もらう（合計1,800万円）
- ・ 30年間毎月5万円を積み立て、年率1%の複利運用、60歳で2,100万円をまとめてもらう

【2025年グラフ】



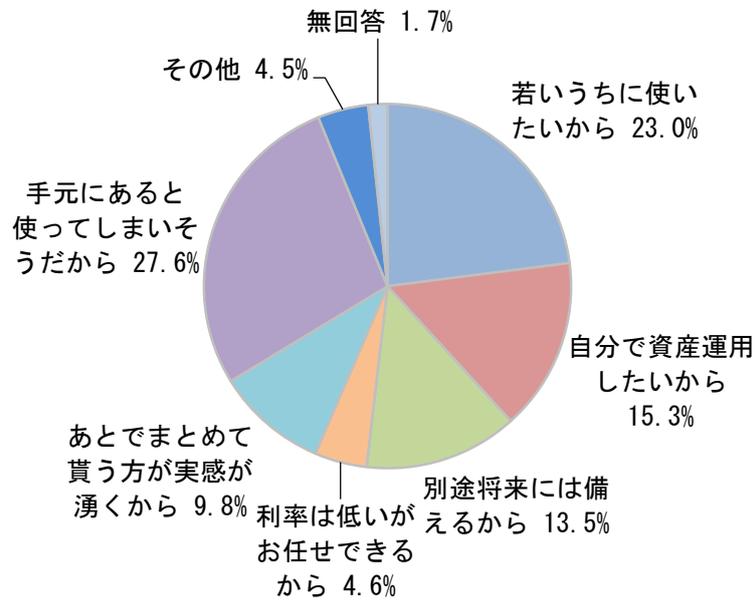
【経年変化グラフ】



Q10-1. 先にもらう、後にもらう、選んだ理由は？

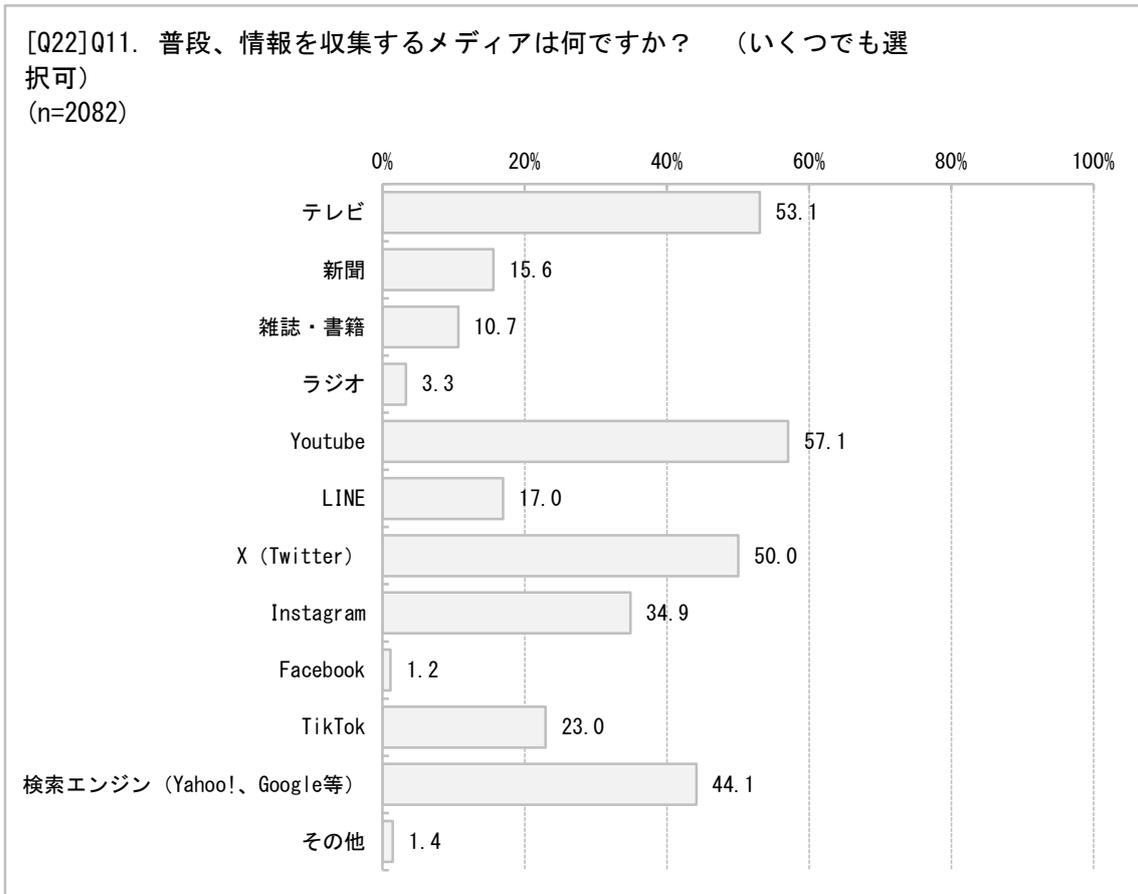
【2025年グラフ】2025年より実施

[Q21] 【Q10の回答について】そう選んだ理由お選びください。
(n=2082)

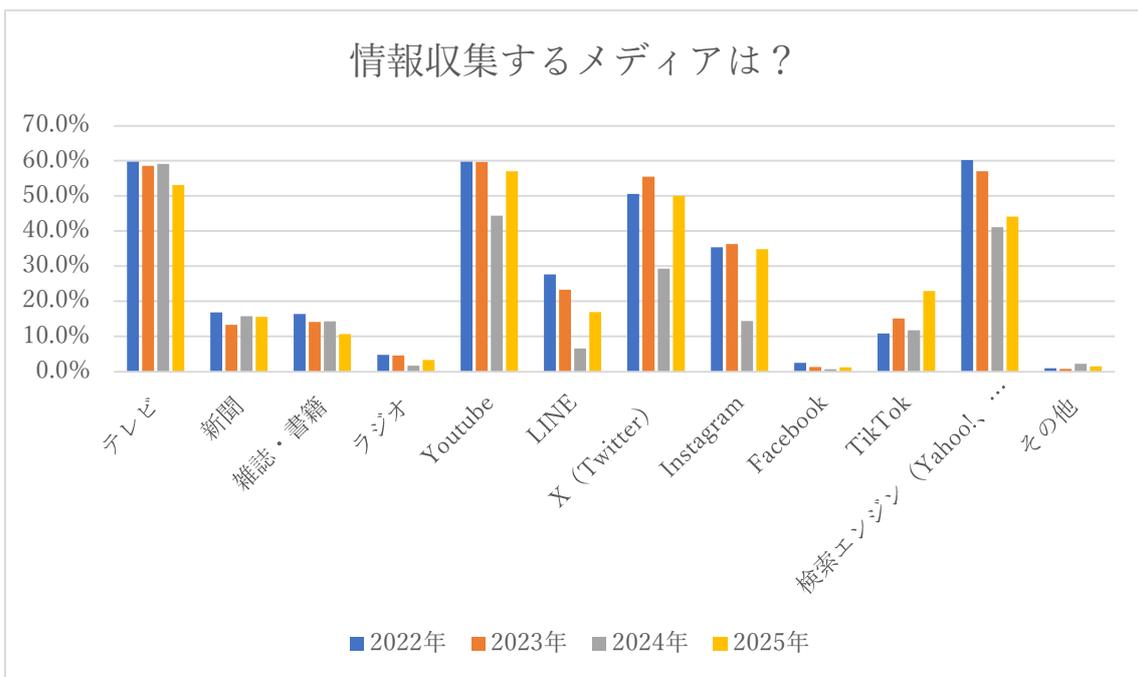


Q11. 普段、お金に関する情報を収集するメディアは何ですか？

【2025年グラフ】

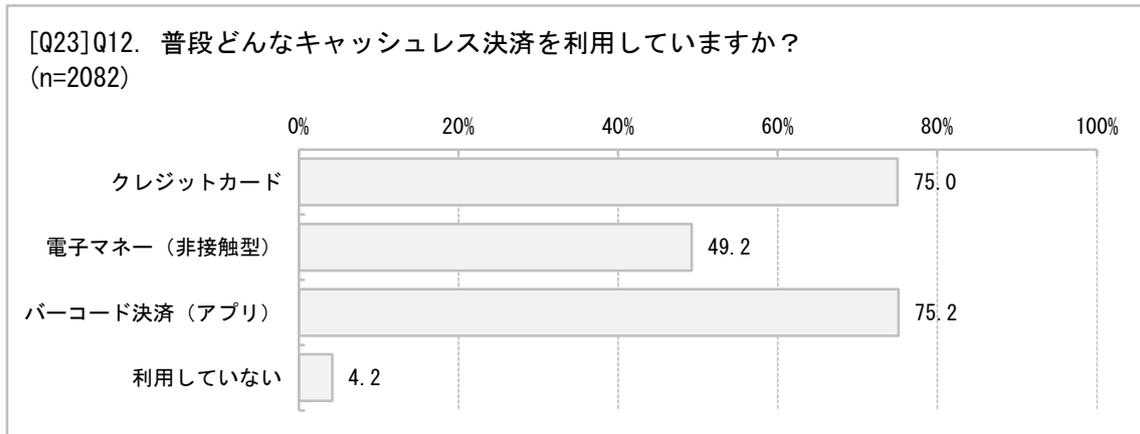


【経年変化グラフ】

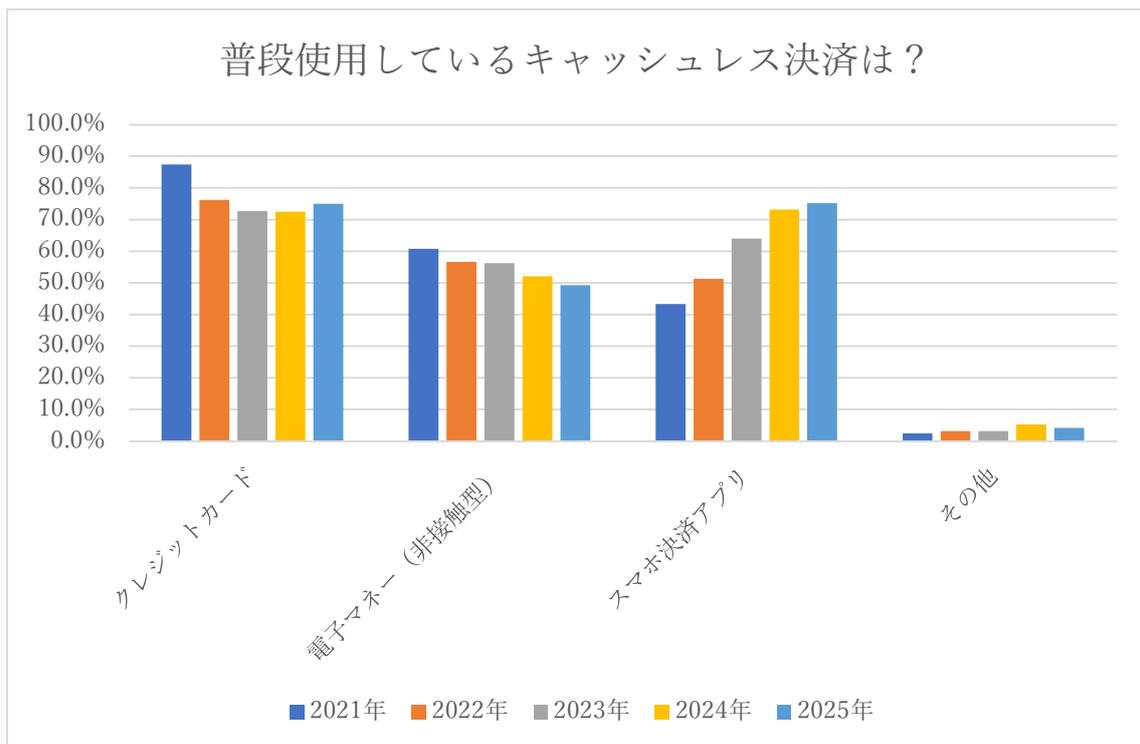


Q12. 普段どんなキャッシュレス決済を利用していますか？

【2025年グラフ】



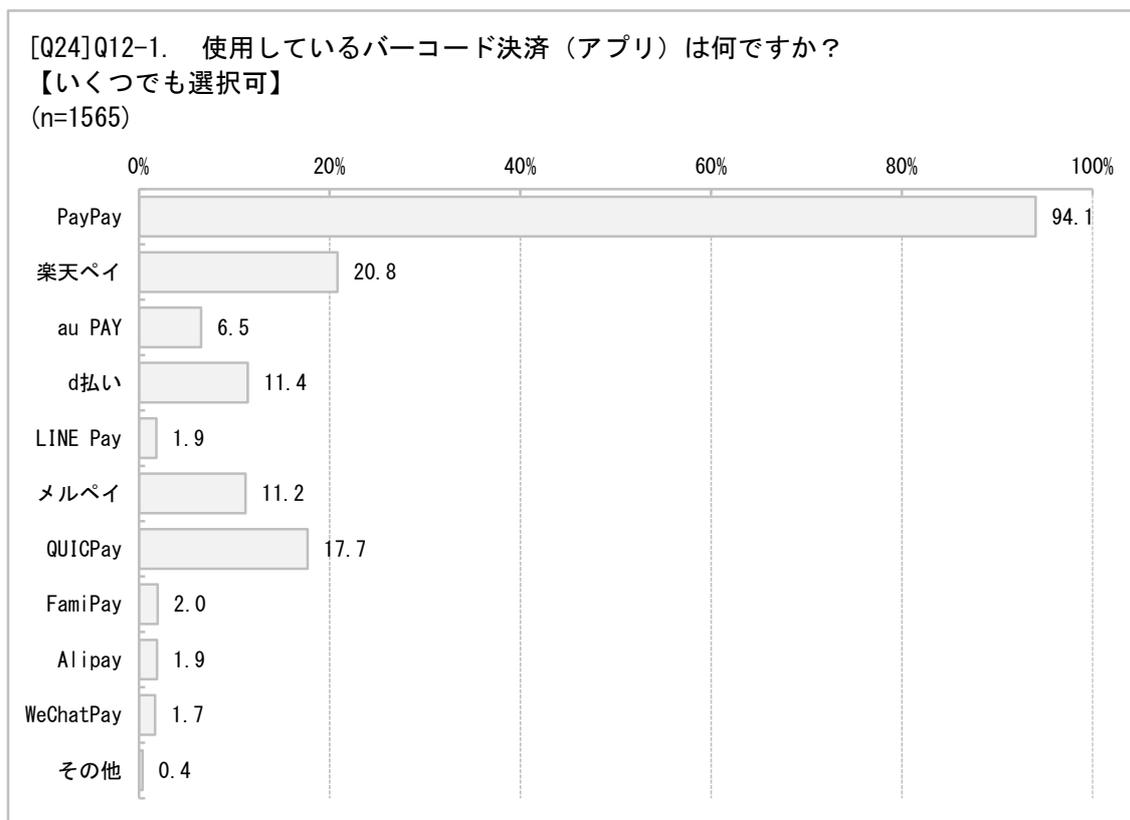
【経年変化グラフ】



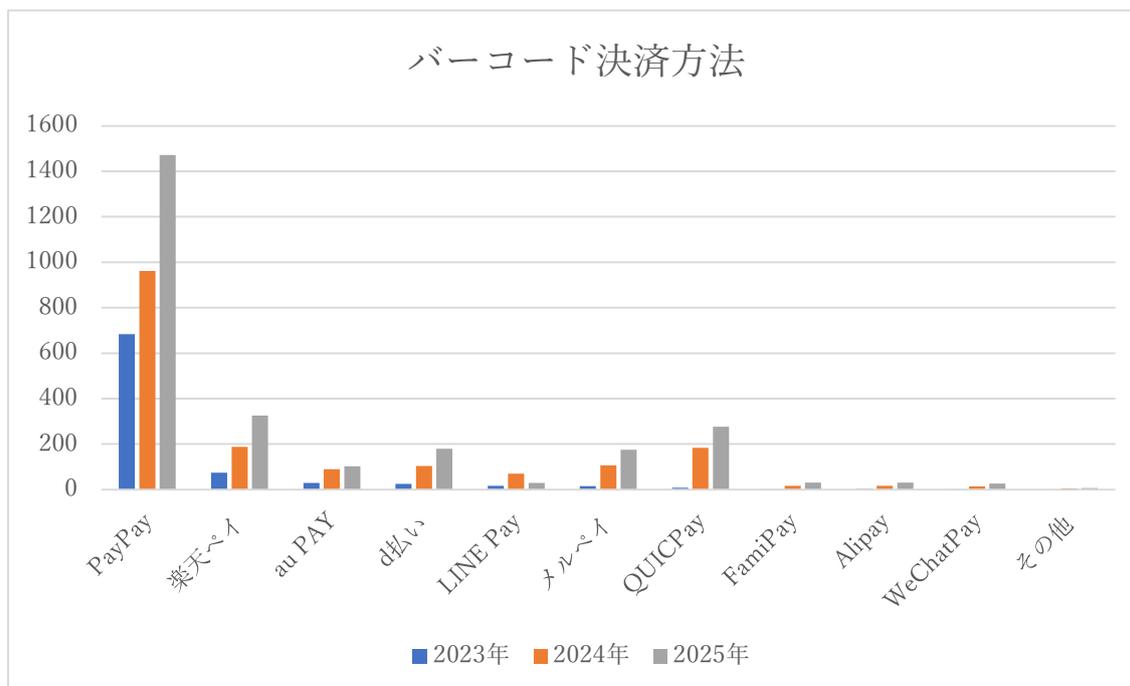
- ✓ スマホ決済アプリ（QRコード決済等）が増加傾向を維持している。
- ✓ 電子マネー（交通系ICカード等）は、現象傾向が続いている。
- ✓ クレジットカードは、減少傾向にあったが、増加傾向に転じている。
コロナ禍から脱して対面決済が増えたことが起因しているのだろうか。
来年以降の動きにも注目したい。

Q12-1. 使用しているバーコード決済（アプリ）は何ですか？

【2025年グラフ】（バーコード決済（アプリ）を使用している方への設問）

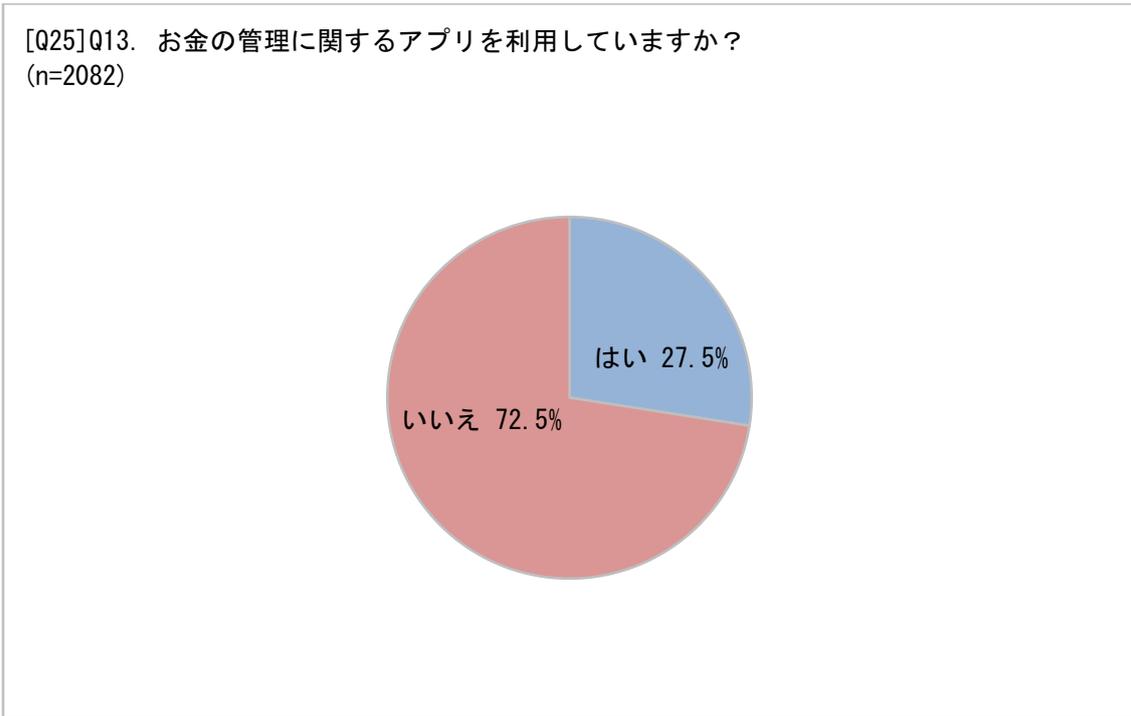


【経年変化グラフ】2023年より実施

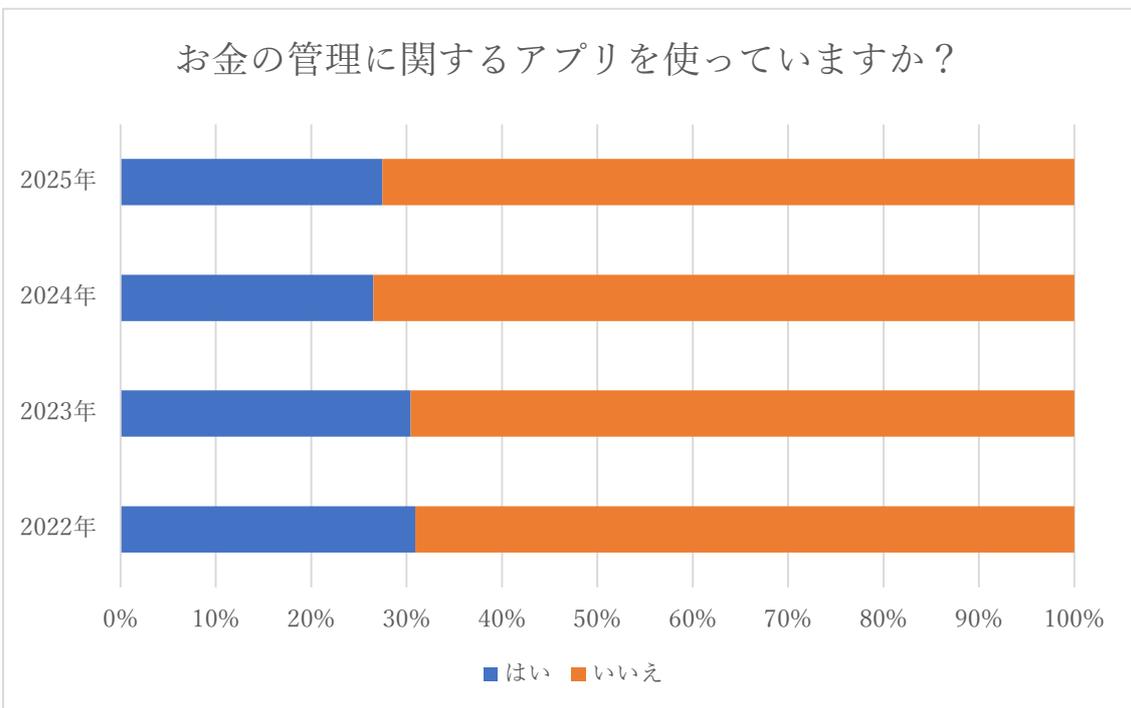


Q13. お金の管理に関するアプリを利用していますか？

【2025年グラフ】

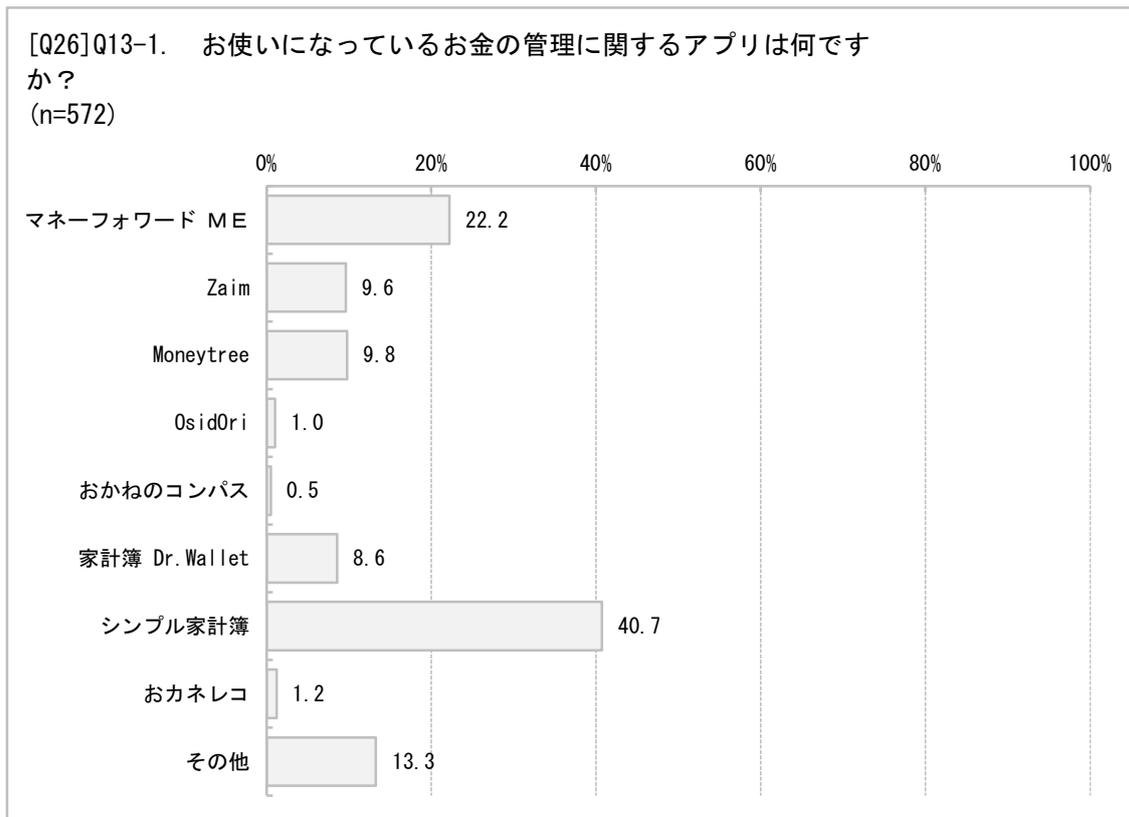


【経年変化グラフ】 2022年より実施



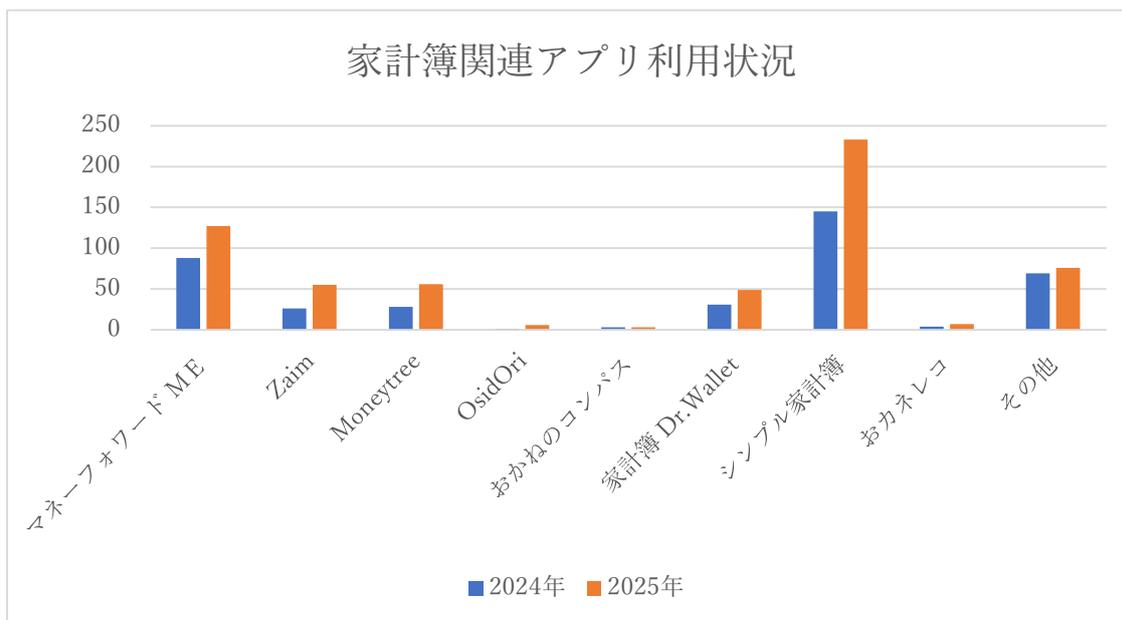
Q13-1. お使いになっているお金の管理に関するアプリは何ですか？

【2025年グラフ】（お金の管理に関するアプリを利用している方への設問）



【経年変化グラフ】

・アプリ名称を問う設問は2024年より実施



以上